



## 2020年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月12日  
東

上場会社名 株式会社エスユーエス 上場取引所  
 コード番号 6554 URL <https://www.sus-g.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齋藤 公男  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 浅田 剛史 (TEL) 075-229-7400  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年9月期第3四半期の連結業績(2019年10月1日~2020年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第3四半期	6,797	14.2	305	△15.9	305	△17.6	176	△16.9
2019年9月期第3四半期	5,953	14.6	363	0.4	370	△2.5	211	△0.0

(注) 包括利益 2020年9月期第3四半期 167百万円(△21.0%) 2019年9月期第3四半期 211百万円(△0.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第3四半期	20.08	19.07
2019年9月期第3四半期	24.26	22.89

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第3四半期	4,104	2,387	55.9
2019年9月期	3,606	2,190	60.4

(参考) 自己資本 2020年9月期第3四半期 2,295百万円 2019年9月期 2,178百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	7.00	7.00
2020年9月期	—	0.00	—		
2020年9月期(予想)				7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年9月期の連結業績予想(2019年10月1日~2020年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,594	18.2	217	△56.1	216	△57.0	117	△65.1	13.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期3Q	8,779,600株	2019年9月期	8,760,000株
② 期末自己株式数	2020年9月期3Q	184株	2019年9月期	136株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期3Q	8,768,992株	2019年9月期3Q	8,735,375株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、期間の前半は雇用や所得環境の改善により、緩やかな回復基調で推移しましたが、期間の後半は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、景気が急速に後退し、先行きは極めて不透明な状況が続いております。

このような中、当社の技術者派遣事業においては、IT分野、機械分野、電気・電子分野、化学・バイオ分野で技術者需要が増加しました。一方、ライン部門等の採用強化に伴い、人件費を中心に販売費及び一般管理費が増加しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高6,797,192千円（対前年同期比14.2%増）、営業利益305,389千円（対前年同期比15.9%減）、経常利益305,698千円（対前年同期比17.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益176,117千円（対前年同期比16.9%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① 技術者派遣事業

技術者派遣は、在籍技術者数が前年同期比で増加したことに加え、受注件数も堅調に推移しました。また、技術者の高付加価値業務への配置転換推進等により、派遣単価の向上にも努めてまいりました。一方、当第3四半期連結会計期間（2020年4月～6月）においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により首都圏を中心に技術者需要が停滞傾向の中、2020年4月入社の新卒技術社員及び既存技術社員の一部に契約獲得の遅れが生じ、稼働率は前年同期より低い水準で推移しました。なお、中途採用は引き続き優秀な人材の獲得に取り組むものの、不透明な国内需要動向を鑑み、新卒採用は一時的に抑制しております。

請負業務は、主にIT請負の取引が拡大したことに加え、製造請負においても、受注件数が堅調に推移しました。

これらの結果、技術者派遣事業の売上高は6,383,707千円（対前年同期比15.0%増）、セグメント利益は361,189千円（対前年同期比0.3%増）となりました。

#### ② コンサルティング事業

システムコンサルティングサービスは、SAPをはじめとした既存の大規模基幹システムにおいてIT基盤の統合・再構築が企業の重要課題とされ、機能拡張やグローバル展開案件が継続して堅調に推移しました。このような中、当社が携わるクラウド系基幹システムであるSAP S/4 HANA及びSAP以外のERPの導入案件は若干の拡大がありました。こうした案件状況に対して、自社ITコンサルタントの育成及び増員に加えて協力会社の外注要員を活用し、チーム体制での対応を推進しました。一方、当第3四半期連結会計期間（2020年4月～6月）においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により新規導入案件が停滞傾向となったことから、案件不足等により育成及び増員メンバーにおける稼働率が低下しました。

これらの結果、コンサルティング事業の売上高は367,260千円（対前年同期比7.7%増）、セグメント利益は26,343千円（対前年同期比7.5%減）となりました。

#### ③ その他

AIマッチングソリューション「SUZAKU」の売上高は対前年同期比で微増となった一方、前年同期に行政から受注した特注のソフトウェア開発に関する売上高は減少しました。

障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社である株式会社ストーンフリーの売上高は、就労移行支援事業の利用者が減少したこと等により、前年同期比で減少しました。

前連結会計年度に設立した株式会社クロスリアリティにおいて、VRIA京都（VRイノベーションアカデミー京都）の開校に向けた準備費用が発生しました。なお、2020年5月にVRIA京都の開校を予定しておりましたが、EON Reality社講師の渡航制限による来日延期、AR/VR機器の納品遅延等により、開校時期を検討中であります。

これらの結果、売上高は46,223千円（対前年同期比24.8%減）、セグメント損失は82,142千円（前年同期は25,476千円の損失）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は4,104,122千円となり、前連結会計年度末より497,830千円の増加となりました。流動資産合計は3,355,461千円となり、前連結会計年度末より79,283千円の増加となりました。これは主に売掛金が62,519千円増加したことによるものであります。固定資産合計は748,661千円となり、前連結会計年度末より418,546千円の増加となりました。これは主に設備購入、システム利用料の前払、事務所の保証金の差入等により子会社(株式会社クロスリアリティ)の固定資産が303,921千円の増加したことに加え、未払費用の増加に伴い投資その他の資産に含まれる繰延税金資産が91,519千円増加したことによるものであります。

### ② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は1,716,676千円となり、前連結会計年度末より300,994千円の増加となりました。流動負債合計は1,659,939千円となり、前連結会計年度末より250,473千円の増加となりました。これは主に短期借入金が230,430千円、賞与引当金が214,069千円減少した一方で、未払費用が532,687千円、その他に含まれる未払消費税等が111,560千円、未払法人税等が66,597千円増加したことによるものであります。固定負債合計は56,736千円となり、前連結会計年度末より50,521千円の増加となりました。これは主に子会社(株式会社クロスリアリティ)の事務所のリース開始等に伴いリース債務が24,510千円、資産除去債務が23,368千円増加したことによるものであります。

### ③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は2,387,446千円となり、前連結会計年度末より196,835千円の増加となりました。これは主に配当実施の一方、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、利益剰余金が114,798千円増加したことによるものであります。加えて、子会社(株式会社クロスリアリティ)における第三者割当増資等による非支配株主持分80,499千円の増加によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年9月期の連結業績予想につきましては、2019年11月14日に公表いたしました予想値から変更はありません。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が当連結会計年度末まで続くものと仮定し、技術者派遣事業における既存技術社員の派遣契約の減少及び新規契約獲得の遅れ、2020年4月入社新卒技術社員の派遣契約獲得の遅れ、技術社員の派遣先のテレワーク推進に伴う稼働時間の減少等を把握可能な範囲で見込んでおりますが、現時点で、業績予想の修正が必要な状況ではありません。今後、各種情報収集に努め、業績予想に変更の必要が生じた場合には速やかに公表いたします。なお、財務基盤のさらなる安定性向上を目的に株式会社三菱UFJ銀行、株式会社三井住友銀行、株式会社みずほ銀行の3行と2020年4月1日から2021年3月31日までの期間で総額20億円のコミットメントライン契約を締結しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,171,967	2,164,186
売掛金	1,034,865	1,097,385
仕掛品	10,095	3,364
その他	59,280	90,558
貸倒引当金	△32	△34
流動資産合計	3,276,177	3,355,461
固定資産		
有形固定資産	95,018	193,127
無形固定資産	46,463	144,956
投資その他の資産	188,632	410,577
固定資産合計	330,114	748,661
資産合計	3,606,291	4,104,122
<b>負債の部</b>		
流動負債		
短期借入金	230,430	—
1年内返済予定の長期借入金	56,384	—
未払金	565,757	587,177
未払法人税等	89,224	155,822
未払費用	69,419	602,107
賞与引当金	214,069	—
その他	184,179	314,833
流動負債合計	1,409,465	1,659,939
固定負債		
リース債務	5,691	30,202
資産除去債務	—	23,368
その他	523	3,166
固定負債合計	6,215	56,736
負債合計	1,415,681	1,716,676
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	429,884	430,325
資本剰余金	524,844	525,970
利益剰余金	1,224,421	1,339,219
自己株式	△155	△184
株主資本合計	2,178,995	2,295,331
非支配株主持分	11,615	92,114
純資産合計	2,190,610	2,387,446
負債純資産合計	3,606,291	4,104,122

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年6月30日)
売上高	5,953,270	6,797,192
売上原価	4,406,639	5,076,504
売上総利益	1,546,630	1,720,687
販売費及び一般管理費	1,183,558	1,415,297
営業利益	363,071	305,389
営業外収益		
受取利息	30	29
受取配当金	2	2
助成金収入	4,290	2,430
受取給付金	—	2,000
投資有価証券売却益	5,042	—
その他	90	109
営業外収益合計	9,456	4,571
営業外費用		
支払利息	1,529	2,550
支払手数料	—	1,710
その他	—	1
営業外費用合計	1,529	4,262
経常利益	370,998	305,698
特別損失		
会員権評価損	1,939	—
特別損失合計	1,939	—
税金等調整前四半期純利益	369,059	305,698
法人税、住民税及び事業税	235,559	229,916
法人税等調整額	△78,384	△91,519
法人税等合計	157,174	138,396
四半期純利益	211,884	167,301
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△23	△8,816
親会社株主に帰属する四半期純利益	211,908	176,117

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益	211,884	167,301
四半期包括利益	211,884	167,301
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	211,908	176,117
非支配株主に係る四半期包括利益	△23	△8,816

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	技術者派遣 事業	コンサル ティング 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	5,550,637	341,153	5,891,790	61,479	5,953,270
計	5,550,637	341,153	5,891,790	61,479	5,953,270
セグメント利益又は損失(△)	360,063	28,484	388,547	△25,476	363,071

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	技術者派遣 事業	コンサル ティング 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,383,707	367,260	6,750,968	46,223	6,797,192
計	6,383,707	367,260	6,750,968	46,223	6,797,192
セグメント利益又は損失(△)	361,189	26,343	387,532	△82,142	305,389

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。